



乳がんと診断されたあなたへ

No.2 もっと知りたい乳がんのこと

この冊子では、皆さんが病気と闘いながらも、
少しでも充実した毎日を過ごすための
ポイントをまとめました。
ご興味のある項目があれば、是非読んでみてください。



はじめに

乳がんと診断された驚きや治療への心配などで、不安な気持ちでいることでしょう。治療の方法や、治療中、治療後の日常生活、注意する点など知りたいことが次々と湧き出てくることと思います。

最近、インターネットによって情報を簡単に手に入れられるようになりました。その一方で、インターネットには情報が溢れており、何を信じていいのかわからなくなってしまうことはないでしょうか。

そこで、患者様が安心して、拠り所にできる情報を提供するために、「乳がんと診断されたあなたへ」を作成しました。

本書は2冊構成になっています。

No.1、「**これだけは知っておきたい乳がんのこと**」では、乳がんの診断から治療までの流れについて、基本的なことを説明しています。乳がんの手術を受けられる皆さんに、読んで頂きたい内容となっています。

No.2、「**もっと知りたい乳がんのこと**」(本冊)では、皆さんが病気と闘いながらも、少しでも充実した毎日を過ごして頂くためのポイントをまとめました。ご興味のある項目があれば、是非読んでみてください。

乳がんを乗り越えるためには、あなた自身が病気を理解し、治療の進め方について正しい知識を得ておくことが大切です。本書をお読みになり、ご自身の病気について、理解を深めて、治療を進めて頂ければと思います。お読みになり、疑問な点は医師、看護師に遠慮なくお聞きください。

乳がんの治療は日進月歩で進化しており、皆さんがパンフレットを受け取った際には、治療薬の種類や使い方が増えている可能性があります。治療の詳細は主治医にお問い合わせください。

乳がんと診断されたあなたへ

No.2 もっと知りたい乳がんのこと

もくじ

セカンドオピニオンについて	2
再発の心配	3
遺伝性乳がん卵巣がん症候群について	4
ご家族、パートナーとのことについて	9
～将来妊娠・出産の希望がある方へ～	9
～パートナーとの関係～	11
～お子さんとのかかわり～	13
治療と仕事の両立について	16
治療にかかるお金のこと	18
緩和ケアについて	21
がん相談について	23
研究について	24
Webサイトについて	25



セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオンとは、診断や治療方針について、**現在診療を受けている担当医とは別に、違う医療機関の医師に「第2の意見」を求めることです。**担当医から説明された診断や治療方針について、納得のいかないこともあるかもしれません。セカンドオピニオンを受けることで、担当医の意見を別の角度からも検討することができ、もし同じ診断や治療方針が説明された場合でも、病気に対する理解が深まることもあります。また、別の治療法が提案された場合には選択の幅が広がることで、より納得して治療に臨むことができます。



セカンドオピニオンを受けようか迷っている時は、**まず担当医の説明を十分理解できているか、なぜセカンドオピニオンを受けようと思ったのか、もう一度自分自身に問いかけてみましょう。**少なくとも、現段階では、あなたの病気の状況を一番よく知っているのは、現在の担当医なので、わからないことがあれば、まず担当医に確認しましょう。わからない点を担当医に確認することで、セカンドオピニオンを受けなくても、あなたの迷いや問題は解決するかもしれません。

セカンドオピニオンを聞いてみたいと思ったら、**その旨を担当医に伝えましょう。**病状によっては時間的な余裕がなく、早めに治療を開始した方がよいこともあります。セカンドオピニオンは予約が必要なことがほとんどで、2～3週間待たなければいけない場合もあります。予めご了承ください。

再発の心配

再発とは、治療の効果により、目に見える大きさのがんがなくなったあと、再びがんが出現することをいいます。乳がんは治療後3年までに再発することが比較的多いのですが、5年から10年を経過して起こることもあります。

局所再発について

手術を受けた側の乳房やその周囲の皮膚やリンパ節にでてくるしこりを「局所再発」といいます。たとえ再発した場合でも、早い時期に発見し治療すれば今までと同じ生活が取り戻せます。

遠隔転移について

がん細胞が血管やリンパ管の流れに乗って、乳房以外の臓器にがんが出てくることを「転移」あるいは「遠隔転移」といいます。乳がんは骨や肺、肝臓、脳への転移が多く見られます。治療はがんの進行や症状の緩和を目的とした、化学療法やホルモン療法、放射線療法が主に行われます。

転移・再発がわかったときは

今後の病状や日常生活などの不安を感じたり、つらく悲しい気持ちになることもあるかと思います。こうした状況の中で大切なことは、「**現在の自分の状態がどうなのか、自分に合った治療は何か、などについて主治医としっかり話し合う。**」ことです。

そのためには、医療者としてしっかりとコミュニケーションをとる必要があります。不安に思っていることや、治療法、治療内容についてわからないことがあれば、あいまいにせず聞いてみることも大切です。



遺伝性乳がん卵巣がん症候群について

がんを引き起こす要因には、食生活、飲酒、喫煙などの「環境要因」のほかに、親から受け継ぎ、生まれ持った体質による「遺伝要因」があります。最近、遺伝子の研究が進んだことで、がんの発症に関する遺伝子が見つかるようになってきました。乳がんにおいても、乳がんの発症に強く関係する遺伝子がいくつか特定され、検査や診断、治療法が進歩してきています。乳がんの5～10%は遺伝性であると言われています。

ここでは、乳がんの代表的な遺伝性腫瘍^{しゅよう}である「遺伝性乳がん卵巣がん症候群」についてご紹介します。

遺伝性乳がん卵巣がん症候群とは

■ 原因となる遺伝子

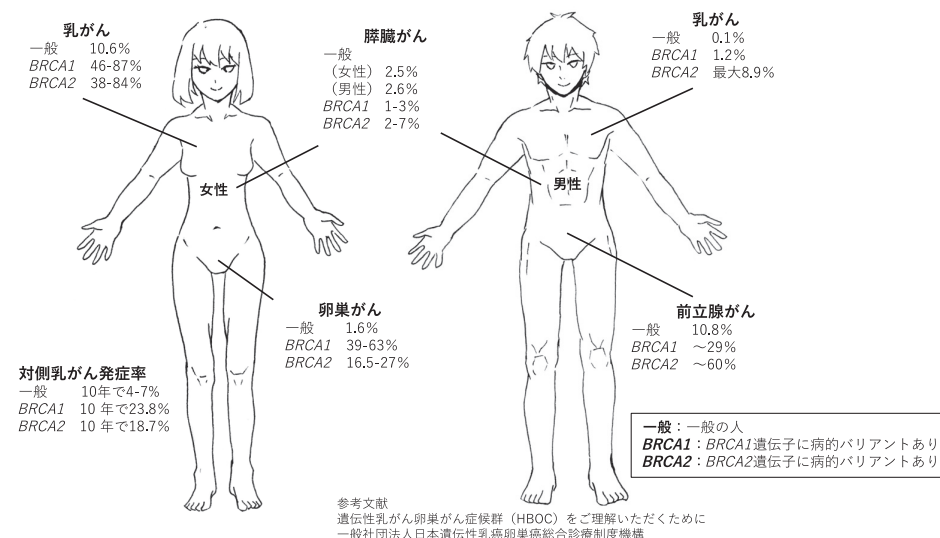
遺伝性乳がん卵巣がん症候群の原因となる遺伝子として、^{ピーアールシーエイ}*BRCA1*と*BRCA2*という2つの遺伝子が発見されました。「遺伝子」とは人間の体をつくる設計図のようなもので、ヒトには約2万個の遺伝子があります。*BRCA1*、*BRCA2*遺伝子も2万個の遺伝子に含まれます。遺伝子にはそれぞれ機能があり、この*BRCA1*、*BRCA2*遺伝子には、紫外線、喫煙、多量飲酒、化学物質など様々な要因で損傷を受けたDNAを正常に修復する働きがあります。しかし、この*BRCA1*または*BRCA2*遺伝子に生まれつきの病的バリエーション（病気の発症に関係する変化）がある場合、DNAの損傷をうまく治せず、DNAの損傷が蓄積して、乳がんや卵巣がんなどになりやすいことがわかりました。乳がんや卵巣がんと診断された方で*BRCA1*または*BRCA2*遺伝子の病的バリエーションを生まれつき持っている場合、遺伝性乳がん卵巣がん症候群と診断されます。

■ *BRCA1*、*BRCA2* 遺伝子の病的バリエーションが見つかる確率

欧米のデータでは、がんを発症していない人も含めて、400～500人に1人が*BRCA1*または*BRCA2* 遺伝子の病的バリエーションを持っていると言われています。

■ *BRCA1*、*BRCA2* 遺伝子に病的バリエーションがある場合に、がんを発症する割合

BRCA1、もしくは*BRCA2* 遺伝子に病的バリエーションがある場合、以下の図のように、女性では、乳がん、卵巣がん、すい臓がんが、男性では乳がん、前立腺がん、すい臓がんの発症率が高くなることが分かっています。乳がんを既に発症した方については、温存手術後の乳房内の再発、および対側乳がんの発症が高いというデータもあります。



最近では、*BRCA1* 遺伝子に病的バリエーションがある場合は、胃がんや胆道がん、*BRCA2* 遺伝子に病的バリエーションがある場合は、胃がんや食道癌の発症率が高くなるという報告もあります。

遺伝性乳がん卵巣がん症候群の可能性

以下の質問に一つでも該当する項目があれば、あなたが遺伝性乳がん卵巣がん症候群である可能性は一般よりも高いと考えられますので、遺伝カウンセリングを受けることをお勧めします。

- ◇ 45歳以下で乳がんと診断された
- ◇ 60歳以下でトリプルネガティブ乳がんと診断された
- ◇ 両側乳がんと診断された
- ◇ 片方の乳房に複数回乳がん（原発性）を診断された
- ◇ 男性で乳がんと診断された
- ◇ 卵巣がん、卵管がん、腹膜がんと診断された
- ◇ ご自身が乳がんと診断され、血縁者*に乳がん、または卵巣がん発症者がいる

*血縁者とは、父母、兄弟姉妹、子ども、祖父母、おじ、おば、甥、姪、孫、曾祖父母、大おじ、大おば、いとこ、甥・姪の子ども、曾孫を指します。

遺伝性乳がん卵巣がん症候群の可能性がある方に対しては、そのリスクに応じた予防や治療方針をとることが大切です。遺伝カウンセリング外来では、「乳がん・卵巣がんの遺伝について」、「遺伝の可能性について」、「乳がん・卵巣がんのリスクについて」、の相談および、実際の遺伝学的検査を受けることができます。

BRCA1、BRCA2 遺伝学的検査の意義

■ BRCA1、BRCA2 遺伝学的検査の方法

遺伝性乳がん卵巣がん症候群の可能性が考慮される場合、BRCA1、BRCA2 遺伝子に病的バリエーションがあるかどうかを調べることができます。検査には採血した血液を使用します。検査費用は、保険診療で行われる場合と保険外（自費）診療で行われる場合があります。詳細は、担当医や遺伝医療の専門家にご確認ください。

■ あなた自身に対して

あなたが遺伝学的検査を受けてBRCA1、BRCA2 遺伝子のいずれかに病的バリエーションがわかった場合、温存手術後の乳房の再発、将来反対側の乳房にも乳がんが発生する可能性が高いので十分な注意が必要です。また、卵巣がんになる確率も高くなると報告されています。

このリスクを軽減するための予防的対応が重要となります。**今回の乳がんの手術方式についても十分に考慮して選択**する必要がありますし、**乳房MRI検査を含めたより精密な検診を受ける、予防的に乳房、卵巣を摘出する**という手段もあります。2020年4月～遺伝性乳がん卵巣がん症候群の疑いがある方の遺伝子検査、遺伝性乳がん卵巣がん症候群と診断された方の予防的手術、乳房の検診に健康保険が適応されるようになりました。BRCA1、BRCA2 遺伝子に病的バリエーションを持った方にどのような方針で検診や予防的手術を行うかはケースバイケースです。担当医や遺伝の専門家と相談しながら決めていきましょう。

■ あなたの家族に対して

あなたにBRCA1またはBRCA2遺伝子の病的バリエーションが見つかった場合、あなたの血縁者も同じ病的バリエーションを一定の確率で持っている可能性があります。血縁者の方も血液から、BRCA1またはBRCA2遺伝子にあなたと同じ病的バリエーションがあるかを調べることができます。

あなたにBRCA1またはBRCA2遺伝子の病的バリエーションが見つかった場合、血縁者にその情報を伝えるか、あるいは何も知らせずにいるか、悩まれるかもしれません。自分が将来乳がん、卵巣がんになりやすいかを知りたいと考える人もいるでしょうし、知りたくない人もいるでしょう。**遺伝学的検査を受ける前には、家族や親戚の誰に対して、どのような遺伝情報を伝えるのかについて考えておくことをお勧めします。**遺伝カウンセリングでは、このような不安や心配についても対応しています。

ご不明な点がございましたら主治医または各病院の遺伝カウンセリング外来にご相談ください。

遺伝性乳がん卵巣がん症候群についての情報はこちら

日本HBOCコンソーシアム

https://johboc.jp/wp23/wp-content/uploads/2023/03/hboc_2022_2.pdf



ご家族、パートナーとのことについて ～将来妊娠・出産の希望がある方へ～

乳がんになったからといって、将来の妊娠や出産を、完全にあきらめる必要はありません。ただし、治療によっては、卵巣機能に影響を与えることで、妊娠しにくくなることもあるため、治療を開始する前に、医師やパートナーらとともによく話し合っておくことが大切です。

抗がん剤による影響

治療開始から2～3か月で卵巣機能が抑制され、月経が見られなくなることが多くなります。治療が終われば、月経が再開し自然妊娠する人もいますが、卵巣機能が回復せず、そのまま閉経を迎えてしまう人もいます。年齢が高い人や、化学療法後にホルモン療法を受けた人などは、月経が止まる確率が高くなることが報告されています。

抗HER2療法による影響

卵巣機能への影響は低いとされていますが、多くの場合、抗がん剤と併用されるため、抗がん剤による卵巣機能の低下を考慮する必要があります。また、トラスツズマブ投与中の妊娠の安全性は確立しておらず、投与中は避妊が必要です。

ホルモン療法による影響

ホルモン療法は卵巣機能にダメージを与えにくいとされていますが、乳がんの治療中は、がんの治療が優先されるため、妊娠出産は控えることが必要です。また、治療期間が5～10年と長期にわたるため、治療終了後に自然妊娠が難しくなる場合があります。

婚姻関係にあるパートナーがいる場合には、治療の開始前に体外に卵子を摘出し、体外受精を行いその受精卵を凍結保存しておくことができます。あなたの将来の妊娠・出産のためには、乳がん治療医と生殖専門医との十分なコミュニケーションのもと、「**あなたの乳がんが再発するリスク**」「**抗がん剤治療の選択肢やスケジュール、治療効果**」「**治療前と治療後に予想される卵巣の状態**」「**パートナーの有無とパートナーやご家族のお考え**」「**生殖医療にかけられる費用**」について情報を集め、十分に検討する必要があります。乳がん治療医と生殖専門医から得た情報を基に、自分のがんの予後や妊娠・出産の可能性を理解したうえで、現実的で、かつあなた自身が納得できる選択をすることが最も大切なことです。

将来の妊娠・出産を希望する場合は、治療が始まる前に、主治医に伝えてください。



将来妊娠・出産の希望がある乳がん患者さんのための情報はこちら

乳がん治療にあたり将来の出産をご希望の患者さんへ

<https://jbcx.xsrv.jp/guideline/p2019/guideline/g9/q63/>



ご家族、パートナーとのことについて ～パートナーとの関係～

病気は本人だけでなく、パートナー（配偶者や恋人）がいる場合には、その相手にとっても一大事です。病気は、カップルの生活に様々な変化をもたらします。治療の選択、仕事、毎日の家事や育児など、対応すべきことは数多くあり、それまでカップルとして経験したことがない物事に対処していくことになります。新しい局面に向き合うときには、お互いが感じていることや、望んでいることを共有することが大切です。

多くの場合、パートナーが病気とわかったとき、その気持ちの浮き沈みは、相手の気持ちにも大きく影響します。特に診断から間もない時期は、たとえ仲の良いカップルでも、お互いが考えていることがわからなくなり、不安でいっぱいになることが少なくありません。

普段なら、「彼なら（彼女なら）こう考えるはず」と察することができるかもしれません。しかし、病気という新しい課題に向き合うとき、お互いに相手の気持ちを考える余裕はないかもしれません。**相手の気持ちや考えを聞いてみることで、そして、自分の気持ちをできるだけ素直に伝えてみることで、お互いの心配事を共有することがとても大切になります。**お互いの心配事を共有してほしいことがわかれば、お互いをいたわりあうことができます。また、治療の選択や毎日の暮らしへの対処を一緒に考えることで、よりよいアイデアが生まれることもあります。



「伝えること、聞くこと」は大切なのですが、普段からあまり気持ちを表に出さないカップルの場合は少し難しいかもしれません。診断後、お互いの気持ちが落ち着き、素直に気持ちを伝え合えるようになるには、ある程度時間がかかるかもしれません。

それでも、**正直でざっくばらんなコミュニケーション**が大切なポイントであることを覚えておきましょう。話をするときには、できるだけ静かな環境で、あまり忙しくない、ゆったりした時間を選ぶとよいでしょう。相手が見せてくれた優しさや配慮に、それがどんなに小さなことでも、「ありがとう」と伝えましょう。また、心細いときこそ、愛情表現の言葉は嬉しいものです。面と向かって伝えるのが照れくさいときは、メールや手紙にしてもよいでしょう。どうしても気持ちを言葉にできないときは、黙って手を握ったり、そっと抱きしめたりすることが、言葉を越えることもあります。

性は、私たちの暮らしの大切な一部分です。治療のために性生活において、さまざまな変化が出ることはありますが、その原因と対応方法を知っておけば、多くの場合、問題を解決あるいは改善することができます。乳がんの治療が性生活におよぼす影響と、それらに対処するためのヒントをまとめたサイトがありますので、ご参照ください。



幸せな性へのアドバイスについてはこちら

乳がん.jp 幸せな性へのアドバイス

<https://www.nyugan.jp/life-support/booklet/sex/>



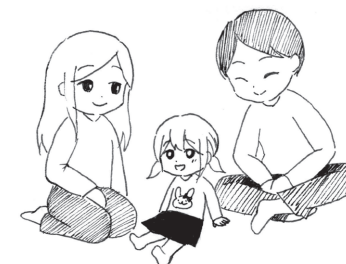
ご家族、パートナーとのことについて ～お子さんとのかわり～

がんと診断されることは、あなたにとってとても怖いことで、あなたの子どもにとっては更に怖いことかもしれません。子どもには事実を隠しておいた方がよいように思えるかもしれませんが、実際は、子どもたちは何かが起きていることを察知し、あなたが伝えないでいることに、より怯えているかもしれません。

「心配させたくないから子供には知らせない方がよい」という考え方もありますが、子どもは、親の病気について、情報が与えられなくても、いつもと違う何かが起こっていることに気づきます。そして、何も知らされないことによって、一人で実際以上に悪い想像を膨らませ、より大きな不安感を持ってしまうこともあるのです。

家族の一員である子供をケアの輪に入れ、サポートしていくのは重要なことです。子どもにわかりやすく伝え、安心感や信頼されている気持ちを持ってもらうこと、また子どもに感情を表現できる場を作ってあげることが、子どもの心を落ち着かせるでしょう。また、あなた自身も隠し事をなくすことで、不要なストレスを感じることなく、治療に向かうことができるでしょう。

では、どのように子どもに伝えたらいいでしょう？



子供の成長段階に合わせた伝え方

子供の成長段階に合わせて、「**がんという病気であること**」「**うつらないこと**」「**誰のせいでもないこと**」を伝えることが大切であると言われています。

幼児期の子供 ～6歳まで

- ◇ ‘がん’ は初めて聞く病気の名前で、病名を知ることによるショックは少ないかもしれない。
- ◇ 「病気がうつるのか」、「自分のせいなのか」と考えがちになる。
- ◇ 絵をかいたり、絵本を読みながら話をするとうわりやすい。
- ◇ 親に代わって誰が自分の世話をしてくれるのかを伝える。
- ◇ なるべく普段と変わらない生活を保つように工夫する。



学童期の子供 7～12歳

- ◇ ‘がん’ という言葉を聞いたことがあり、命にかかわる病気かもしれないことを知っている。
- ◇ がんや治療のことを知ろう（質問）とする。
- ◇ 子供からの質問には、例えを使って分かりやすく説明する。
- ◇ 死についても尋ねてくる。
- ◇ 学校や課外活動が普段通りに送れるように配慮する。



思春期の子供 12歳～

- ◇ 親の変化に気付きながらも、不安や親への気遣いを心の内に秘めて平然としていることもある。
- ◇ 一人前として扱われることを望んでいる。
- ◇ できるだけ正直に説明し、子供の意見を聞きながら、物事を決めていくことも大切。
- ◇ 親以外の人間関係も子供の支えになるため、友人、先生、親戚などにサポートをお願いする。
- ◇ 子供が質問を書くノートを用意し、コミュニケーションをはかってみる。
- ◇ 親ががんだと知らされても、自己中心的な考え方や反応をすることがある。



お子さんにどのように伝えるのが良いのか、対応に悩まれたら、まずは身近な医療者に相談してください。



Hope Treeは、親ががんになった子ども、その患者さんご家族を支援する団体です。webサイトには、親の“がん”を子供にどう伝えるかのヒントが掲載されています。

がんになった親と子供のための情報はこちら

NPO法人Hope Tree

<https://hope-tree.jp/hope-tree/>



治療と仕事の両立について

がんになっても、治療を受けながら仕事を続ける人は増えています。また、2016年の改正がん対策基本法では、「事業主の責務」として、労働者ががんになっても雇用継続に向けた配慮をすることが努力義務として明記されました。

少しでも仕事を続けたいという気持ちがあるなら、**すぐに退職を考えず、勤務先の就業規則や福利厚生制度などの情報を収集**することから始めてはいかがでしょうか。有給休暇や欠勤の規定はどうか、職場で利用可能な支援制度はあるかなど、人事や総務担当者（派遣社員の方は、派遣元に）に確認しておくことも大切です。そのうえで、主治医から、今後の治療のスケジュールや体力回復の見通しについて、職場の人や家族と話をする機会を持つとよいでしょう。

自営業者の場合は、いつごろからどの程度の仕事が再開できるか、主治医と相談し、周囲の人に理解を求めておくことも必要です。

復職した直後は、つい頑張ってしまうがちです。むりにならないよう、少しずつ仕事量を増やしていくように配慮しましょう。職場に配慮してほしいことがあったら、上司に相談してみるのもよい方法です。体調に波がある場合は、周囲の方にも体調の変動をわかってもらえるように、日頃のコミュニケーションを大切にすることも重要です。



乳がんの治療後は、医師から特別な指示がない限り、生活上の制限はありません。但し、手術でわきの下のリンパ節の郭清を受けた方は、腕のリンパ浮腫を発症する危険がありますので、手術を受けた側の腕に過度の負荷がかからないように注意しましょう。

がんと仕事についての情報はこちら

国立がん研究センター がん対策情報センターがん情報サービス
「がんと仕事のQ&A」
<https://ganjoho.jp/public/support/work/qa/>



「**がん相談支援センター**」は、全国の「がん診療連携拠点病院」等に設置されている、がんに関するご相談の窓口です。「がん相談支援センター」では、がんの専門相談員が、就労も含めた療養生活全般の質問や相談に応じてくれます。**産業保健総合支援センター**（治療をしながら働き続けることについての相談）や**ハローワーク**（治療をしながら仕事探しをすることについての相談）とも連携をしながら、治療と仕事の両立について相談をすることも可能です。各病院にお問い合わせください。

新潟県のがん相談支援センター
を検索できます

がん相談支援センターの情報はこちら

国立がん研究センター がん対策情報センターがん情報サービス
「がん相談支援センター」とは
<https://ganjoho.jp/public/consultation/cisc/cisc.html>



治療にかかるお金のこと

がんと診断されてから必要なお金の一部は、公的医療保険などで負担が軽減できる場合があります。また、就業や収入の状況に合わせた支援制度も整備されています。

がんの治療に関わるお金

乳がんの検査や手術、薬代など、治療費のほとんどは保険診療の対象となります。

公的医療保険などが適用となるお金	それ以外にかかるお金
検査代 入院料 手術代 放射線治療費 薬代 訪問介護利用料など	通院・入院時の交通費 開発中の試験的な治療（先進治療など） 試験的な薬（治験）・医療機器を使った治療費 その他必要になるお金：差額ベッド代、食費、日用品、医療用ウィッグ、家族の交通費・宿泊費、お見舞いのお返しなど 生活費

お金について相談できる場所

通院や治療、治療後の療養に必要なお金と、利用できる制度や保険などについて、治療が始まる前に調べておくことで、お金に関する心配を軽減することができるでしょう。まずは「**がん相談支援センター**」に相談することから始めましょう。また、**各医療機関の相談窓口**、**ソーシャルワーカー**、**各自治体の相談窓口**に尋ねてみることもできます。

利用できる制度と相談窓口

1. 医療費の負担を軽くする公的制度

医療費の払戻しを受けたい	高額療養費制度	加入している公的医療保険（健康保険組合・協会けんぽ・国民健康保険・後期高齢者医療制度）の窓口
税金の還付を受けたい	医療費控除	住所地管轄の税務署

2. 介護保険

介護が必要な可能性がある	介護保険制度 訪問介護、訪問看護、通所介護、福祉用具レンタルなど	市区町村の介護保険窓口、地域包括支援センター
--------------	--	------------------------

3. 生活費などの助成や給付など

休職を検討したい	傷病手当金	会社担当者、協会けんぽ、健康保険組合など
生活が苦しい生活にかかる経済的支援を受けたい	生活福祉資金貸付制度	市区町村の社会福祉協議会
	生活保護制度	住所地管轄の福祉事務所

4. 民間保険

保障の内容を確認したい 給付金などを受け取りたい	給付金、各種特約	加入している保険会社
-----------------------------	-----------------	------------

高額療養費制度

治療にかかる費用のうち、公的医療保険が適用される費用については、**高額療養費制度**を利用することができます。この制度では、ひと月（月の1日～末日）に医療機関や薬局の窓口で支払った額が一定の金額を超えた場合に、その超えた金額が払い戻されます。払い戻しまでには少なくとも3か月程度の期間を要しますが、事前に「**限度額適用認定証**」（住民税非課税世帯の方は「**限度額適用・標準負担額減額認定証**」）の手続きを行うことで、ひと月の支払額そのものを自己負担限度額までとすることができます。

医療費控除

1年間（1月1日から12月31日）に患者さんまたはご家族（生計を一にする親族）が支払った**医療費が一定額を超えた場合**、超えた分が医療費控除となり、**確定申告をすると税金が還付される制度**です。

がんとお金についての情報はこちら

国立がん研究センター がん対策情報センターがん情報サービス
「がんとお金」

<https://ganjoho.jp/public/support/backup/finance.html>

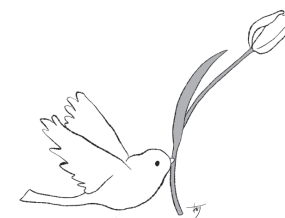


緩和ケアについて

がん患者さんは、がん自体の症状のほかに、痛み、倦怠感などのさまざまな身体的な症状や、落ち込み、悲しみなどの精神的な苦痛を経験します。「**緩和ケア**」は、**がんと診断されたときから行う、身体的・精神的な苦痛をやわらげるためのケア**です。

もちろん主治医や担当看護師などの医療スタッフも緩和ケアを行います。さらに専門的な緩和ケアを提供する体制として「**緩和ケアチーム**」があります。様々な方向から問題解決の糸口を見いだせるように、いろいろな職種の医療者がメンバーとなって結成されている医療チームです。緩和ケアチームのメンバーが患者さんやご家族から直接お話を伺い、そこからどのようなケアが必要か、主治医や担当看護師などを交えて相談し、その結果に応じてケアを行っていきます。

ぜひ近くの医療スタッフに「緩和ケアを受けたい」とお申し出ください。また医療スタッフから「お困りの点について緩和ケアチームに相談してみませんか？」とご提案する場合もあります。



緩和ケアについての情報はこちら

日本緩和医療学会 緩和ケア普及啓発活動のホームページ
緩和ケア.net

<http://www.kanwacare.net/>



がん相談について

地域がん診療連携拠点病院では、**がん相談支援センター**を設置しています。がんの治療について、今後の療養上のこと、生活についてなど、がん医療に関わる質問や相談にお答えします。

がんに関することならどんな相談でもお受けします

- ◇ がんと言われてどうしたらいいかわからない
- ◇ がんについての知識がなく不安
- ◇ 治療費・生活費や社会保障、社会福祉制度の利用相談
- ◇ 転院や施設の利用、退院後の日常生活に対する不安
- ◇ 家族・地域等での人間関係についての悩み
- ◇ 仕事などの社会復帰についての相談



相談やプライバシーへの配慮

- ◇ 患者さんご本人でなくとも、がん相談支援センターを設置されている病院に入院・通院していない方でも結構です。
- ◇ 費用はかかりません。
- ◇ 守秘義務のもと秘密は厳守いたします。
- ◇ ソーシャルワーカーや看護師が対応いたします。

がん相談支援センターへの相談は、相談内容に応じて該当部署と連携し、対応する場合がございます。ご相談の場合は、事前の予約取得をお勧めいたします。

がん相談支援センターの情報はこちら

国立がん研究センター がん対策情報センターがん情報サービス
「がん相談支援センター」とは

<https://ganjoho.jp/public/consultation/cisc/cisc.html>



緩和ケアチーム

私たちが協力してあなたを支えます



研究について

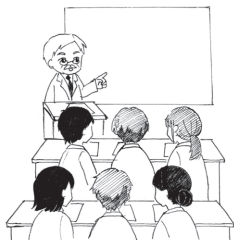
患者さんによりよい乳がん治療を提供することを目的に、がん治療の発展に向けた研究活動に取り組んでいます。そのためには、がんと診断された方について「どのような診療が行われ、その後どのような経過をたどられたのか」を調査・集約することが欠かせません。患者さんのカルテを元に予後に関する情報を集めております。**一定期間受診の無い方を対象に、電話または文書で経過の確認をさせて頂いたり、転院された方を対象に、転院先の医療機関へ経過をお問い合わせさせて頂くことがあります。**ご理解とご協力をお願いいたします。

治験・臨床試験について

新しい薬や治療法が多くの患者さんに使われるようになるためには、動物を用いた研究からはじまり、健康なボランティアの方や患者さんの協力を得てその効果や安全性を調べる試験を行う必要があります。このような試験のうち人間を対象とするものを「臨床試験」と言い、特に厚生労働省の承認を得るための臨床試験を「治験」と呼びます。

対象となる可能性のある方にはお声をかけさせていただきます。治験や臨床試験には、定期的な検査や詳細な症状の記録などのデータ収集が欠かせません。説明を十分にお聞き頂き、ご納得頂けた場合には、ご協力をお願いいたします。

皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



Webサイトについて

**国立がん研究センターがん対策情報センター
がん情報サービス
[一般の方向けサイト]**

<https://ganjoho.jp/public/index.html>



国立研究開発法人国立がん研究センターに属するがんの総合情報サイトです。各種のがんに関する疾患の知識や治療法、療養生活など、がんにかかわるさまざまな情報がわかりやすく紹介されています。

**日本乳癌学会ホームページ
[患者さんのための乳がん診療ガイドライン]**

<http://jbcs.gr.jp/guideline/p2019/>



乳がん患者さんやそのご家族が、いま知りたいことについて、正しい情報をわかりやすく得られることを目的に、医師と患者さん、看護師、薬剤師が力を合わせ作成した「患者さんのための診療ガイドライン」が掲載されています。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.